

鶴ヶ島中学校と西中学校の学校再編

～(仮称)西部中学校開校に向けて～

鶴ヶ島市教育委員会

本日の内容

1. 学校再編計画

2. 鶴ヶ島中学校と西中学校の再編

3. これまでに寄せられた市民からの意見とその回答



1. 学校再編計画

- (1) 本市の学校再編の計画
- (2) 公共施設個別利用実施計画の策定経過
- (3) 学校再編の目的・計画期間
- (4) 児童・生徒数の推移と将来推計
- (5) 小学校の変遷
- (6) 中学校の変遷
- (7) 学級数による学校規模の分類
- (8) 令和4年度の児童・生徒数等
- (9) 小規模化が進行する中学校の再編
- (10) 学校再編・長寿命化の基本方針
- (11) 学校再編で目指す学校づくり
- (12) 中学校再編の計画
- (13) 小学校再編の計画
- (14) 中学校再編イメージ図
- (15) 小学校再編イメージ図
- (16) 小・中学校の通学距離、通学時間

(1) 本市の学校再編の計画

鶴ヶ島市公共施設個別利用実施計画(令和4年3月)

対象施設: 小・中学校を含む主要な公共施設

＜教育委員会策定＞

鶴ヶ島市小・中学校の再編、再配置計画(令和4年2月)

対象施設: 小・中学校

(2) 公共施設個別利用実施計画の策定経過

公共施設個別利用実施計画(案)の策定
(令和3年3月)



公共施設個別利用実施計画の策定
(令和4年3月)

< 市民意見の収集 >

- 市民意見募集アンケート調査
(令和3年6月～8月)
- 個別市民ヒアリング調査
(令和3年6月～9月)
- 議会報告会(令和3年8月)
- 議会によるアンケート調査
(令和3年8月～9月)
- 市民コメント
(令和4年1月～2月)

(3) 学校再編の目的・計画期間

< 学校再編の目的 >

適正規模の学校をつくり、より良い教育環境を整備すること

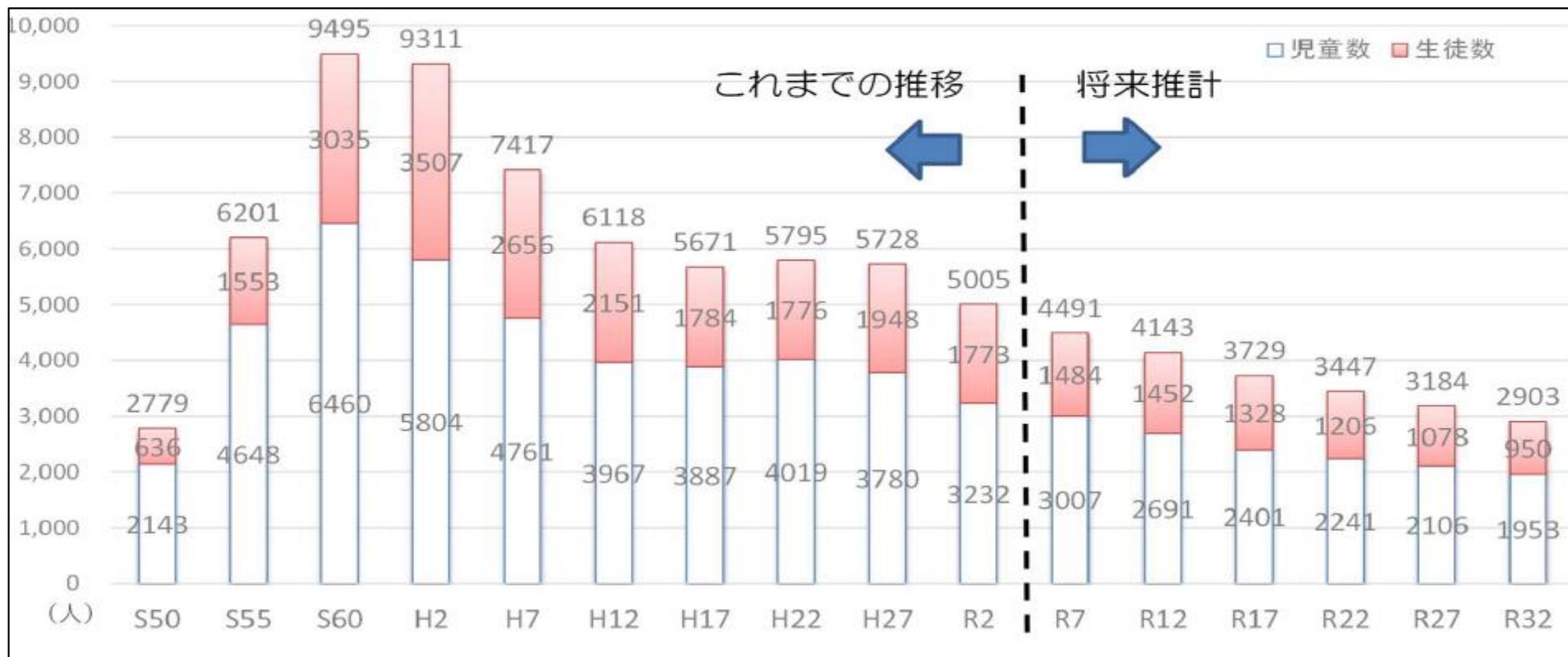


< 計画期間 >

令和3年度から令和32年度までの30年間

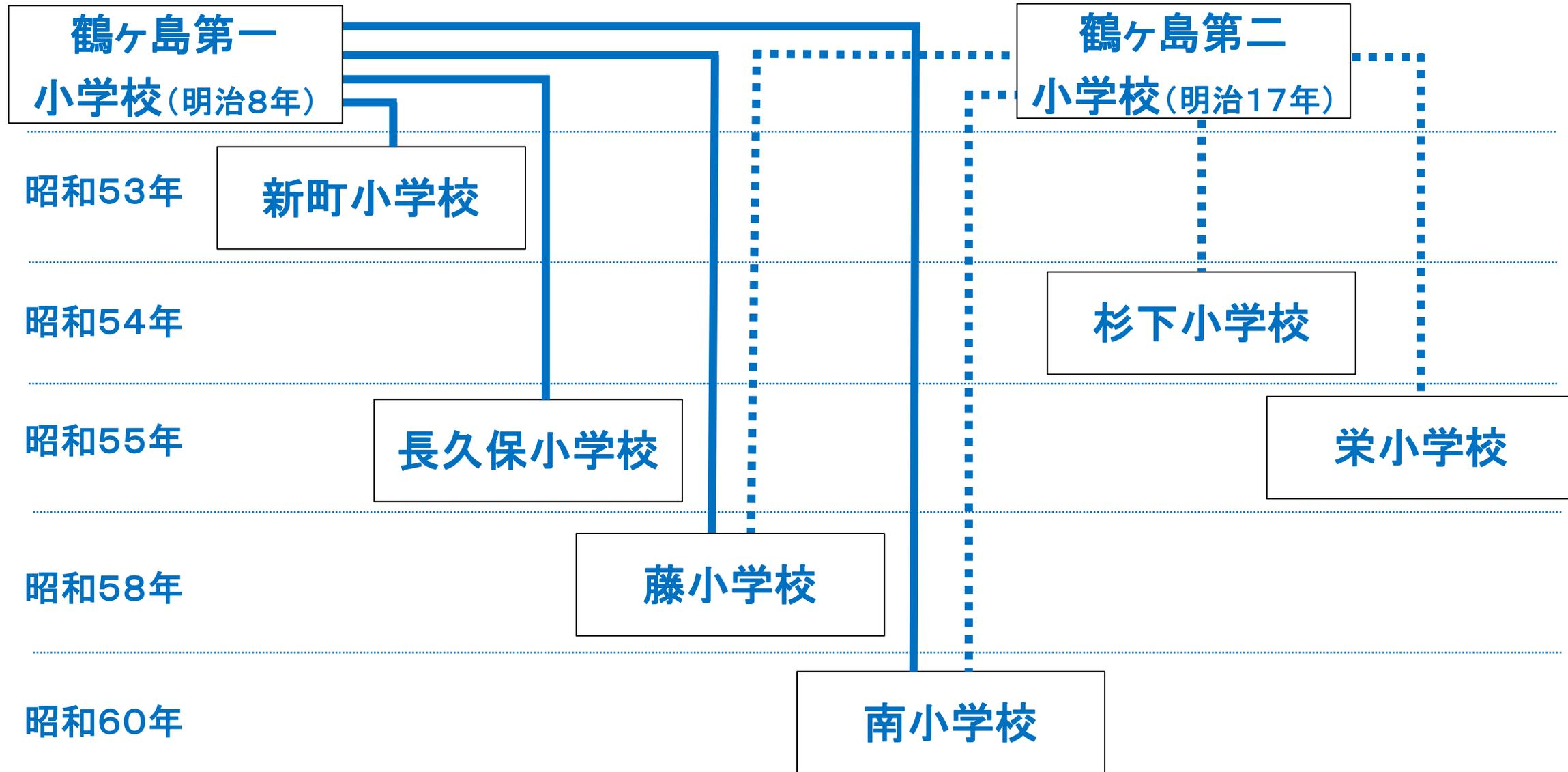
※社会情勢や人口推移などの変化を踏まえ、5年ごとに適切に計画の評価調整、管理等を行い、見直しを図る

(4) 児童・生徒数の推移と将来推計

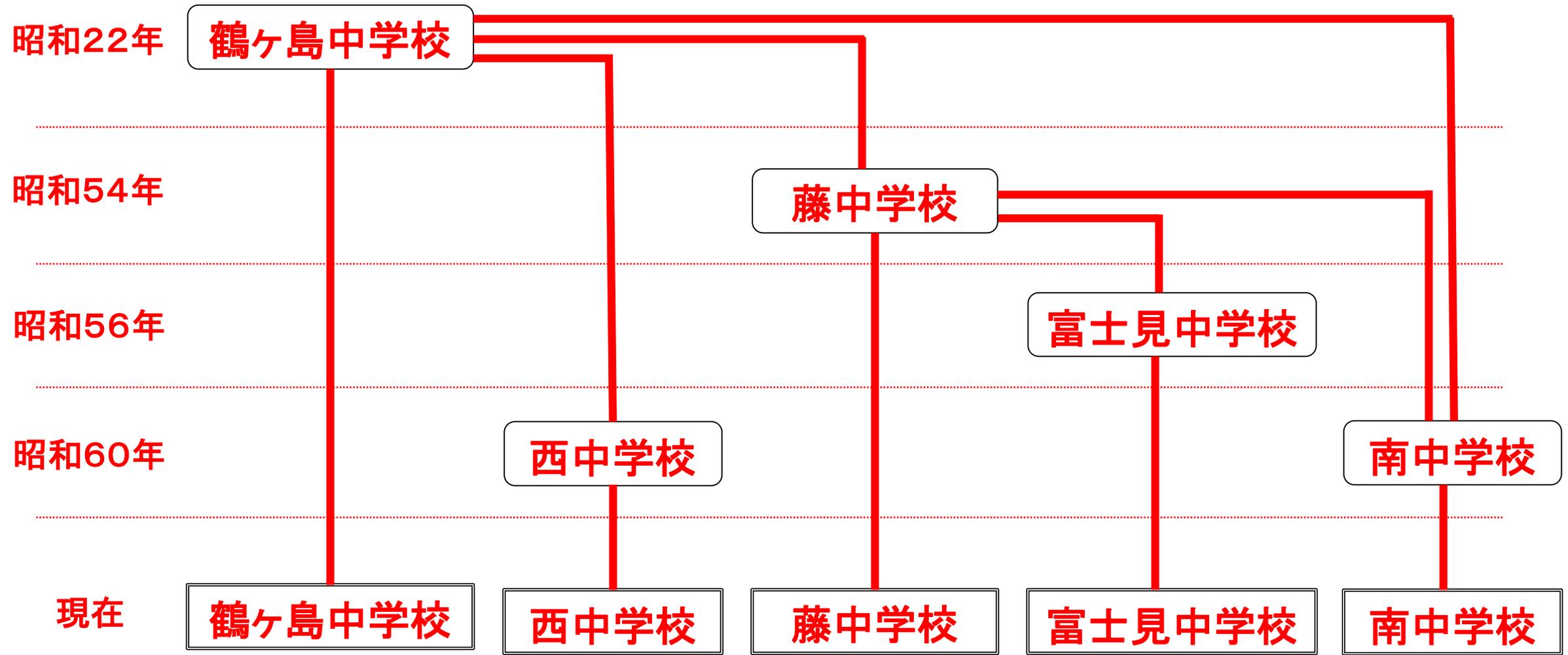


児童・生徒数の将来推計では、およそ30年後は現在の60%程度にまで減少

(5) 小学校の変遷



(6) 中学校の変遷



(7) 学級数による学校規模の分類

鶴ヶ島市の適正規模

学校規模の分類	過小規模校	小規模校	適正規模校	大規模校	過大規模校
小学校学級数	1～5	6～11	12～18	19～30	31以上
中学校学級数	1～2	3～11			

鶴ヶ島第二小学校
 富士見中学校
 西中学校
 南中学校

小学校7校
 鶴ヶ島中学校
 藤中学校

(8) 令和4年度の児童・生徒数等

学校名	児童数	学級数
鶴ヶ島第一小学校	400人	14
鶴ヶ島第二小学校	269人	11
新町小学校	394人	12
杉下小学校	429人	14
長久保小学校	355人	12
栄小学校	338人	12
藤小学校	452人	15
南小学校	346人	12
合計	2,983人	102

学校名	生徒数	学級数
鶴ヶ島中学校	400人	12
藤中学校	490人	15
富士見中学校	251人	8
西中学校	282人	9
南中学校	238人	7
合計	1,661人	51

※特別支援学級を除く

太枠は、現段階で適正規模を下回っている学校

(9) 小規模化が進行する中学校の再編

小学校は、おおむね30年後に8校中4校が適正規模を下回る
中学校は、おおむね20年後に5校すべてが適正規模を下回る



中学校の小規模化が進行

西中学校が最も早く小規模化する見込み
(最も早く1学年1学級が発生する見込み)



学校再編



中学校の適正規模の確保

最初に鶴ヶ島中学校と西中学校の
再編に取り組む

(10) 学校再編・長寿命化の基本方針

鶴ヶ島市の子どもたちのために

現在の学校教育の水準を将来にわたって維持・向上し

良好な教育環境の整備・充実を図るよう学校再編・長寿命化を行う

※「学力向上」、「いじめ根絶」、「不登校対策」、「安全な登下校」を重点事項に掲げ取り組む。

(11) 学校再編で目指す学校づくり

- ① 十分な教育効果を発揮できるように、適正規模を確保する
- ② 「1つの小学校の卒業生が全員同じ中学校に通学する通学区域」を実現する
- ③ 学校の多様な教育方法に対応できる自由度の高い学習空間を整備する
- ④ 時代に見合った小・中学校の教育環境を整備する
- ⑤ 小中一貫教育を推進する
- ⑥ 特別支援学級及び配慮を要する児童・生徒の居場所を確保する
- ⑦ 再編準備委員会等を設置し、学校と地域で連携し、さらに地域とともにある学校を目指す
- ⑧ 安全・快適な学校施設を目指す

(12) 中学校再編の計画 (※小規模化が進行する中学校の再編を先行)

西中学校が最も小規模化する見込み

地区	再編対象校	使用校	再編目標時期
西部	鶴ヶ島中学校 西中学校	鶴ヶ島中学校 ((仮称)西部中学校) ※西部地区にある中学校	令和9年4月以降
南部	南中学校 南小学校	南小学校 ((仮称)南小中一貫教育校)	令和14年4月以降
東部	藤中学校 富士見中学校	藤中学校 ((仮称)東部中学校) ※東部地区にある中学校	令和19年4月以降

5年後

5年後

社会情勢や人口推移などの変化を踏まえ

5年ごとに適切に計画の評価、調整、管理等を行い、見直しを図る

(13) 小学校再編の計画

小学校再編は20年後

地区	再編対象校	使用校	再編目標時期
東部	鶴ヶ島第二小学校 藤小学校	藤小学校 ((仮称)第二小学校)	令和23年4月以降
	杉下小学校 栄小学校	栄小学校 ((仮称)第三小学校)	令和27年4月以降
西部	鶴ヶ島第一小学校 長久保小学校	鶴ヶ島第一小学校 ((仮称)第一小学校)	令和31年4月以降
	新町小学校		

小学校は、児童の通学の安全や地域コミュニティの関わり合いから

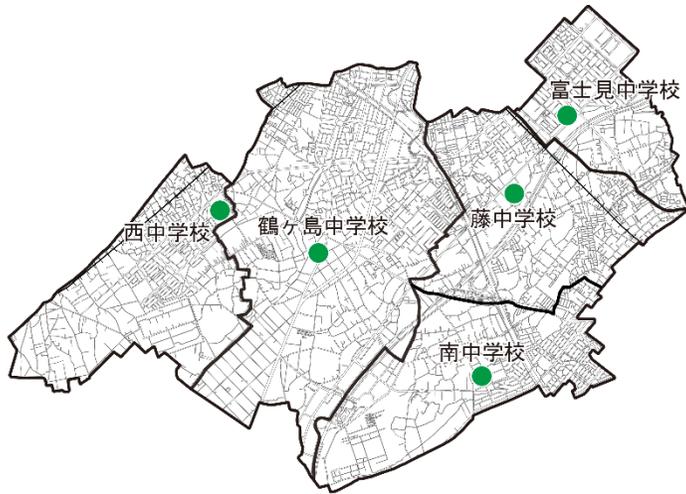
当面は現状を維持する計画

社会情勢や人口推移などの変化を踏まえ

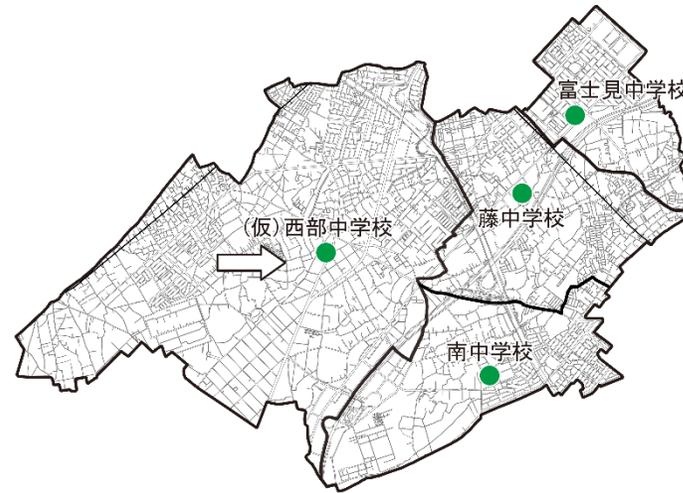
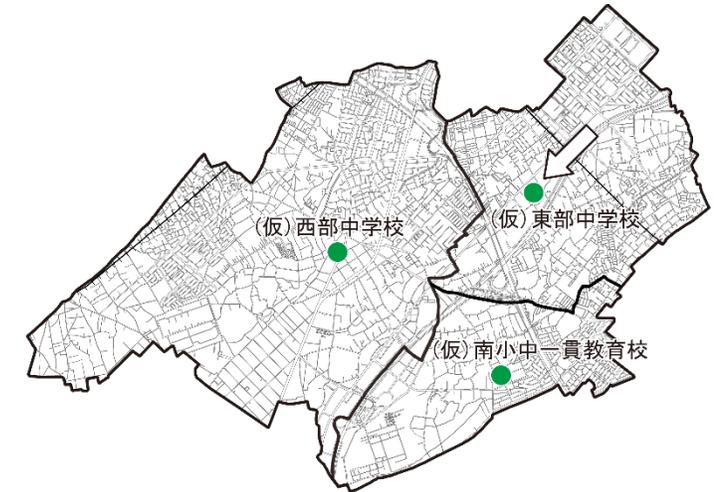
5年ごとに適切に計画の評価、調整、管理等を行い、見直しを図る

(14) 中学校再編イメージ図

現在の中学校区

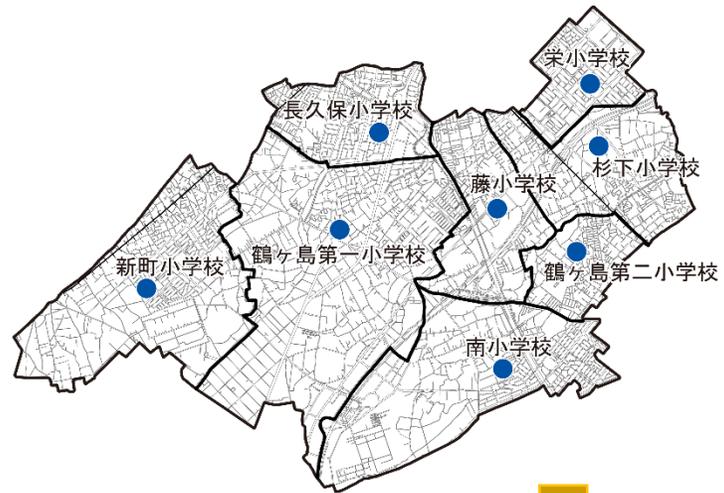


令和9年度(仮称)西部中学校

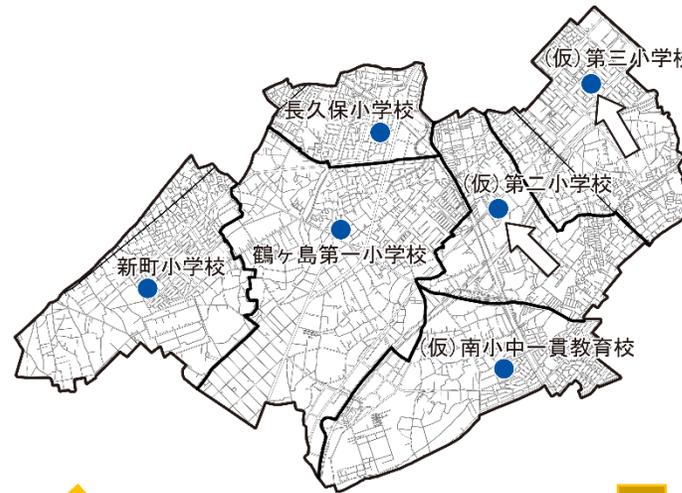
令和14年度(仮称)南小中一貫教育学校
令和19年度(仮称)東部学校

(15) 小学校再編イメージ図

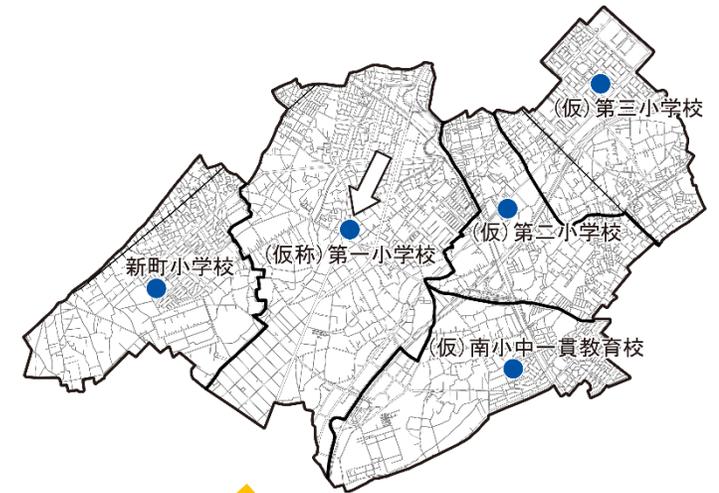
現在の小学校区



令和23年度(仮称)第二小学校
令和27年度(仮称)第三小学校



令和31年度(仮称)第一小学校



(16) 小・中学校の通学距離、通学時間

国の通学距離、通学時間の考え方

＜通学距離の基準＞

小学校: おおむね4km以内 中学校: おおむね6km以内

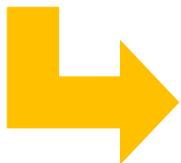
＜通学時間の基準＞

小・中学校: おおむね1時間以内

鶴ヶ島市の通学距離の考え方

＜通学距離の基準＞

小学校: おおむね2km以内 中学校: おおむね3km以内



学校再編にあたって通学の安全を確保する

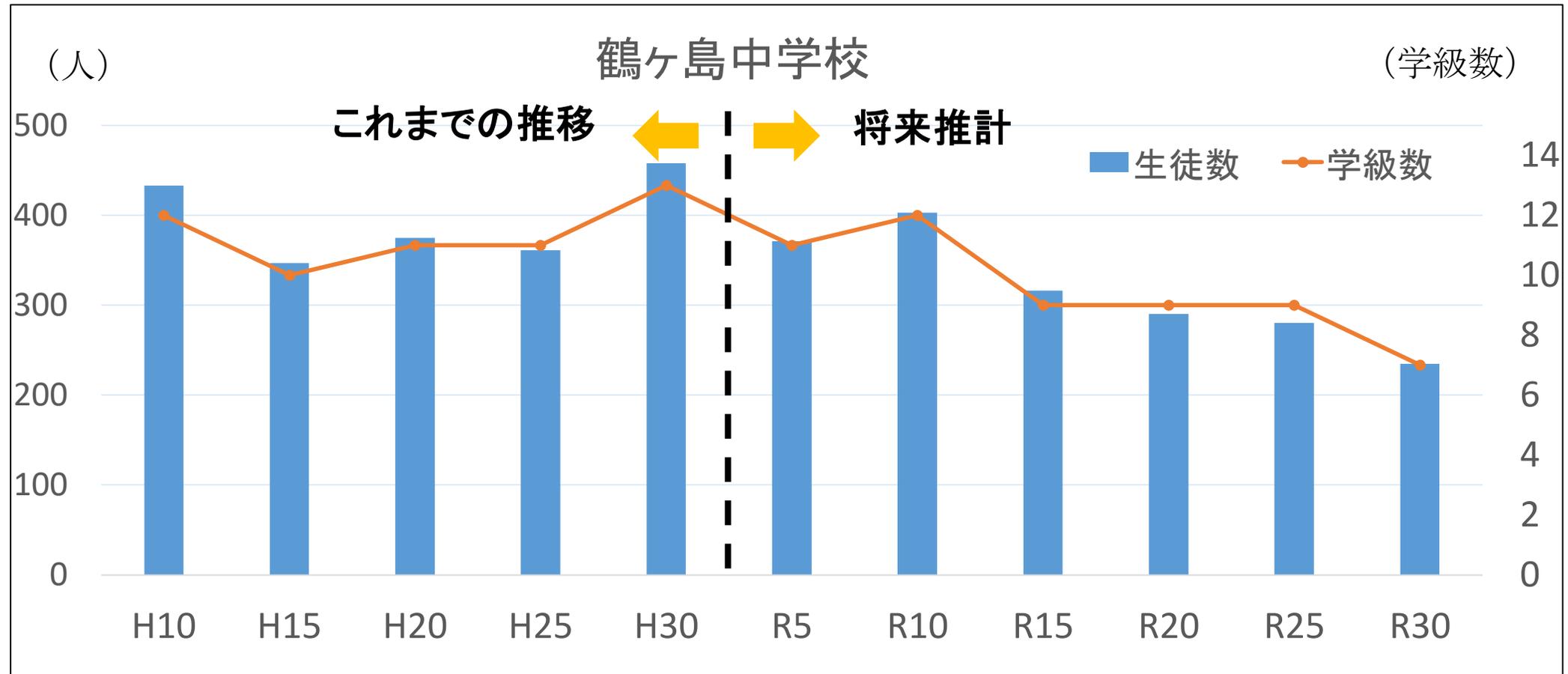
2. 鶴ヶ島中学校と西中学校の再編

- (1) 鶴ヶ島中学校と西中学校の概要
- (2) 鶴ヶ島中学校の推移と将来推計
- (3) 西中学校の推移と将来推計
- (4) 学校再編シミュレーション
- (5) (仮称)西部中学校の概要
- (6) (仮称)西部中学校開校に向けた基本方針
- (7) (仮称)西部中学校開校にあたっての改修等
- (8) 今後の進め方
- (9) (仮称)西部中学校の開校スケジュール

(1) 鶴ヶ島中学校と西中学校の概要

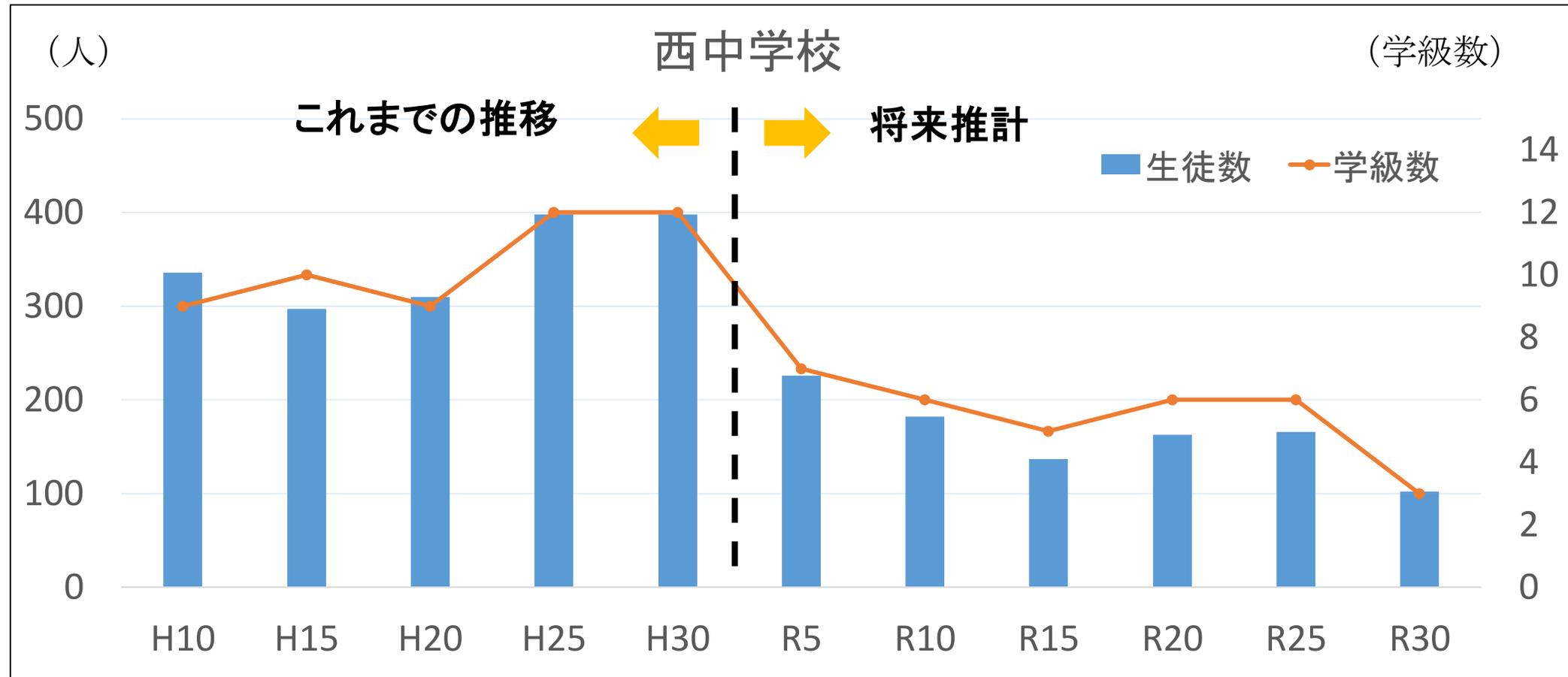
		鶴ヶ島中学校	西中学校
開校		昭和22年	昭和60年
現校舎建築年		昭和52年	昭和60年
面積	校舎	6,748m ²	5,968m ²
	体育館	1,233m ²	1,464m ²
	運動場	20,477m ²	21,562m ²
普通教室数		24	19
特別教室数		14	12
生徒数(特別支援学級を除く)		400人	282人
学級数(特別支援学級を除く)		12	9
基準教員数(校長含む)		20人	17人
部活動数		12	11

(2) 鶴ヶ島中学校の推移と将来推計



※学級数は、中学1年生は38人学級、2、3年生は40人学級で計算

(3) 西中学校の推移と将来推計



※学級数は、中学1年生は38人学級、2, 3年生は40人学級で計算

(4) 学校再編シミュレーション

再編しない場合							再編した場合					
		令和 4年	令和 9年	令和 19年	令和 29年	令和 32年			令和 9年	令和 19年	令和 29年	令和 32年
鶴ヶ島 中学校	生徒数	400人	359人	306人	245人	218人	(仮称) 西部 中学校	生徒数	549人	488人	358人	301人
	学級数	12	11	9	9	6		学級数	15	14	10	9
	基準 教員数 (校長含)	20人	19人	17人	17人	12人		基準 教員数 (校長含)	24人	23人	18人	17人
西中 学校	生徒数	282人	190人	182人	113人	83人						
	学級数	9	6	6	4	3						
	基準 教員数 (校長含)	17人	12人	12人	10人	9人						

※特別支援学級を除く

埼玉県市町村立小・中学校教職員配当基準表を基に作成

(5) (仮称)西部中学校の概要

再編対象校	鶴ヶ島中学校、西中学校
開校時期	令和9年4月
位置	現在の鶴ヶ島中学校
校舎等	現在の鶴ヶ島中学校の敷地及び施設を有効活用
開校時の学級数	15学級※特別支援学級を除く

※西中学校の跡地について

体育館、校庭→市の体育施設や災害時の避難所として活用する

校舎→教育や福祉の複合施設として有効活用することを検討していく

(6) (仮称)西部中学校開校に向けた基本方針(令和4年5月策定)

「未来を創造できる生徒を育てる魅力ある学校づくり」

未来を担う子どもたちがいきいきと学び

発達段階に応じて「生きる力」を身につけるためには

集団としての教育機能が最大限に発揮される学校規模を整え

豊かな社会性を育む教育環境を整備していくことが重要

基本理念

未来を創り出す力を育む教育に求められる

「生きる力」の育成を目指し、地域との協働により

これまでの伝統を大切にしながら、加速度的に変化する社会の中で

未来を創造できる人材を育成する学校を目指す

(7) (仮称)西部中学校開校にあたっての改修等

創造的改修	新たな学習空間の創出、少人数学習・習熟度別学習への対応、 教育ICT化
劣化改修	内装の改修(木質化)、給排水・電気設備の改修、外装の改修(防水 など)
機能的改修	空調設備、トイレの改修(洋式化)、照明の改修(LED化)、生徒の更 衣室設置、バリアフリー化(スロープ、手すり、エレベーター等)
拠点機能整備	コミュニティ・スクール、PTA活動拠点、防災拠点機能の強化

(8) 今後の進め方

- ① 鶴ヶ島中学校の学校施設を改修し、時代に合った活力ある魅力的な教育環境を整備する
- ② 再編に伴い学校環境が変化するため、再編前後の児童・生徒の不安や心配事を把握し、必要な支援をする
- ③ 中学校の再編は、保護者及び地域住民にも大きな影響を及ぼすことから、保護者及び地域住民の理解を得ながら進める
- ④ (仮称)西部中学校開校準備委員会を設置し、再編に向けた諸課題を整理する

○登下校の安全性の確保

学校再編にあたっては、通学距離が長くなる場合の対応や安全確保のため、自転車通学区域の拡充や通学路の整備等を行う

(9) (仮称)西部中学校の開校スケジュール(予定)

年度	主な準備事項	施設改修
令和4年度	<ul style="list-style-type: none"> ・市民説明会 ・開校準備委員会の設置 ・教職員人事の調整(令和8年度まで) 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校整備基本構想の策定
令和5年度 令和6年度	<ul style="list-style-type: none"> ・通学路の検討 ・校名、校歌、校章等の検討、選定 ・制服等の検討、決定 ・PTAの話し合い(令和8年度まで) ・条例改正 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本設計・実施設計の実施
令和7年度	<ul style="list-style-type: none"> ・再編校への移転計画作成 ・再編校の事前交流(令和8年度まで) 	<ul style="list-style-type: none"> ・改修工事一期
令和8年度	<ul style="list-style-type: none"> ・備品の移管 ・規則等の改正 ・PTA再編 ・閉校式 	<ul style="list-style-type: none"> ・改修工事二期
令和9年度	(仮称)西部中学校開校	

※開校準備委員会は、学校・保護者・地域の方、教育委員会等で構成し、学校行事、部活動、通学体制、事前交流、生徒・保護者の支援など、開校に向けた準備等について検討します。

3. これまでに寄せられた市民からの意見とその回答

Q1 学校再編は本当に必要なのか。

Q2 通学の安全についてどう考えているのか。

Q3 鶴ヶ島中学校と西中学校の再編によって、スクールバスの導入を考えているのか。

Q4 令和9年度の学校再編では、西中学校の新1年生のみが(仮称)西部中学校に進学するのか。

Q5 学校再編予定の令和9年度に(仮称)西部中学校の3年生になる。高校受験が心配である。

Q6 (仮称)西部中学校とあるが、鶴ヶ島中学校という名称では駄目なのか。

Q7 令和9年度、(仮称)西部中学校の新2年生、新3年生の制服はどうなるのか。

Q8 現在の通学区域が本当に正しいのか。

Q9 人口が増えるような取組が必要である。

Q10 西中学校がなくなり、地域の公共施設が少なくなる。

Q1 学校再編は本当に必要なのか。【学校再編の必要性】

学校再編の目的は、適正規模の学校をつくり、より良い教育環境を整備することです。

児童・生徒数の減少による学校の小規模化に対応するため、学校再編は必要と考えています。

中学校は教科担任制であり、小規模化が進むと教員が減少し、全ての教科に常勤の教員が確保できない恐れがあります。

教員が少なくなると、教員一人当たりの校務分掌が増え、生徒と向き合う時間が減少する可能性があります。

学校施設の老朽化も理由の一つです。計画的に維持管理し、教育環境の維持向上を図るため、学校を集約し、予算を集中的に投入する必要があると考えています。

Q2 学校再編によって通学区域が広がる。

通学の安全についてどう考えているのか。【**通学の安全**】

通学の安全確保はとても重要です。

市では、「第5期通学路整備計画(令和4年度～令和8年度)」を策定し、児童・生徒の通学の安全を図っています。

学校再編にあたっては、通学の安全は重要な課題と考えています。

開校準備委員会を設置し、通学の安全を含め様々な点について検討したいと考えています。

教育委員会では、通学の安全をしっかりと考え、学校再編に取り組みます。

→p19 小・中学校の通学距離、通学時間

→p28 今後の進め方

Q3 鶴ヶ島中学校と西中学校の再編によって、スクールバスの導入を考
えているのか。【スクールバス】

原則、通学距離が一定距離以上の場合、自転車通学を考えています。

本市の状況や近隣市町の動向を踏まえると、中学校再編によるスクールバス
の導入は考えていません。

開校準備委員会を通して、生徒の通学の安全についてしっかり検討していきます。

Q4 令和9年度の学校再編では、西中学校の新1年生のみが(仮称)西部中学校に進学し、新2年生、新3年生は西中学校のままなのか。

【西部中学校に通う生徒】

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度
進学先	新町小学校、西中学校					(仮称)西部中学校		
	鶴ヶ島第一、長久保小学校、鶴ヶ島中学校							
H23年度生	小学5年	小学6年	中学1年	中学2年	中学3年			
H24年度生	小学4年	小学5年	小学6年	中学1年	中学2年	中学3年		
H25年度生	小学3年	小学4年	小学5年	小学6年	中学1年	中学2年	中学3年	
H26年度生	小学2年	小学3年	小学4年	小学5年	小学6年	中学1年	中学2年	中学3年

※令和9年度以降、西中学校に通う生徒は全員、(仮称)西部中学校に通うこととなります。

Q5 学校再編予定の令和9年度に(仮称)西部中学校の3年生になる。
高校受験が心配である。**【学校再編と受験】**

学校再編時の生徒の不安をできるだけなくすため、鶴ヶ島中学校と西中学校で事前交流を行います。

鶴ヶ島中学校と西中学校の教職員を(仮称)西部中学校に配置してもらえるように県教育委員会に働きかけを行います。

環境変化に伴う生徒の不安に寄り添うため、支援体制づくりを行います。

できるだけ生徒・保護者の不安を払しょくし、学校再編に取り組み、より良い教育環境を整備していきます。

→p28 今後の進め方

Q6 (仮称)西部中学校とあるが、鶴ヶ島中学校という名称では駄目なのか。

【学校の名称】

現在は、市域を三つに分け、西部地区にある学校であることから、(仮称)西部中学校としています。

学校再編は、より良い教育環境を目指し取り組むもので、「新しい学校」として再編したいと考えています。

校名については、生徒や保護者、地域の方の声を聞いて、「鶴ヶ島中学校」という名称を含めて、開校準備委員会で検討する必要があると考えています。

→p29 (仮称)西部中学校の開校スケジュール

Q7 令和9年度、(仮称)西部中学校の新2年生、新3年生の制服はどうなるのか。それまでの制服を着ることはできるのか。【制服等】

開校準備委員会の中で、(仮称)西部中学校の校名、校歌、校章、校旗、制服、体操着、ジャージなどについて検討していきます。

制服等は、令和9年度の学校再編時に一新するのか、経過措置として、新2年生、新3年生には従前の制服着用を認めるのか、しっかり検討していきます。

→p29 (仮称)西部中学校の開校スケジュール

Q8 現在の通学区域だから西中学校は小規模化してしまう。
現在の通学区域が本当に正しいのか。【現在の通学区域】

現在の通学区域は、平成24年9月の学区審議会の答申を受けて、教育委員会
が設定しました。

以前は、鶴ヶ島第一小学校・長久保小学校の児童は、鶴ヶ島中学校・西中学校
に分かれて通学していました。

西部地域の開発により、新町小学校、西中学校の児童・生徒数が増加しました。

前回の学区審議会の基本的な考え方である「一つの小学校の卒業生が全員
同じ中学校に通学する通学区域」を実現するため、西中学校の通学区域を
変更したものです。

学校再編は、今までの通学区域の経緯を踏まえ検討しました。

Q9 学校再編は人口減少につながる。

人口が増えるような取組が必要である。**【人口増加の取組】**

人口減少社会の到来によって、どの自治体も人口増加政策の必要性を感じています。

教育委員会では、少子化の現状を踏まえ、学校再編に取り組み、より良い教育環境を整備し、「子どもにやさしいまちづくり」など、人口増加政策に取り組んでいます。

Q10 西中学校がなくなり、地域の公共施設が少なくなる。

【学校再編後の西中学校】

西中学校の体育館と校庭は、市の体育施設や災害時の避難所として活用します。

校舎は、教育や福祉の複合施設として有効活用することを検討していきます。

学校再編は、子どもたちの教育環境を第一に考え、総合的に判断しました。

→p25 (仮称)西部中学校の概要



鶴ヶ島市ホームページに
学校再編について掲載しています。
今後も情報提供に努めます。

<市ホームページ>

子育て・教育⇒学校教育⇒学校再編

子どもたちを中心に

子どもたちの未来を考え

子どもたちの教育環境を整える